

2011年3月11日 東日本大震災、障害のある人と支援者の物語。

# 星に語りて

Starry Sky

名北福祉会障害部地域上映会開催!

利用者ステージ (10:00~)

&クッキーなどの授産販売・東北支援 (物資販売・募金)

きょうされん40周年記念映画

松本 動 監督作品

出演/要田禎子 螢雪次朗 今谷フトシ 植木紀世彦 枝光利雄 菅井 玲 入江崇史 宮川浩明 生島ヒロシ 赤塚真人

製作統括/西村 直 企画/藤井克徳 脚本/山本おさむ 音楽/小林洋平 プロデューサー/新井英夫

撮影/鈴木雅也 照明/古橋孝映 録音/西岡正巳 美術/津留啓亮 編集/古賀陽一 スクリプター/山下千鶴

衣裳/杉本京加 ヘアメイク/清水美穂 ラインプロデューサー/赤間俊秀 助監督/佐藤 吏 制作担当/富田政男

制作プロダクション/ターゲット 製作/きょうされん (2019年/115分)

2011年3月11日

# 障害者の状況と 支援者の活動を描く 劇映画

舞台の一つは、岩手県陸前高田市。高台にある共同作業所「あおぎり」では、津波の直接的な被害は免れたものの、仲間の一人を失って落胆する利用者たちを女性の所長が励ましながら、一日も早く障害のある人が日常を取り戻せるように一步を踏み出そうとしていた。また、全国障害者ネットワークでは、東京、秋田、岩手、福岡など全国のグループが連携して支援活動を始めようとしていた。そんな矢先、「障害者が消えた」という情報が入ってきた。多くの避難所をまわっても、障害のある人の姿がほとんど見当たらないというのだ。

一方、福島第一原子力発電所事故によって避難を余儀なくされた地域の一つ、南相馬市では、避難できずに取り残されている障害のある人の存在を知った共同作業所「クロスロードハウス」の代表らが、自らの手で調査に踏み切ろうとしていた。被災地各地に支援センターが設置され、次々と支援物資が送られ、全国各地から支援員が集まってきた。しかし、各地の障害のある人の安否確認を進める中で、彼らに立ちはだかる障壁があった。それは、個人情報保護法によって開示されない、障害のある人の情報だった。法律によって守られる人権と、一刻を争う人命救助との狭間で苦しむ支援者たち。全国障害者ネットワークでは、この障壁を打ち破る手立てを模索していった。



きょうされんは、1977年に障害のある人の願いをもとに16カ所の共同作業所によって結成されました。現在、約1,870カ所の障害者事業所が加盟しともに活動しています。きょうされんでは、これまでに4回の映画製作・上映活動を続けてきましたが、40周年記念事業として製作された、今から100年前に精神病者を救おうと奔走した呉秀三の功績を描くドキュメンタリー映画「夜明け前」に次ぐ5

回目の今作品は、大災害時における障害のある人の状況と支援者の活動を描く劇映画です。2011年3月11日午後2時46分18秒、宮城県の牡鹿半島東沖で発生したマグニチュード9.0のわが国観測史上最大の地震。東日本大震災による傷跡は、未だに人々の心の中に深く刻まれています。しかし、1万8千人を超える死者・行方不明者の中で、障害のある人の死亡率が全

住民の2倍だという事実を知る人は少ないのではないのでしょうか。この映画は、当時を知る証言者たちへの取材に基づき、その知られざる実情を山本おさむ氏の脚本と新進気鋭の松本勲監督によって描き出す群像劇です。実力派俳優陣に加え、障害当事者を出演者として起用し、人間味あふれるドラマが繰り広げられます。

脚本 山本おさむ (長崎県出身の漫画家)

代表作: 「そばもん ニッポン蕎麦行脚」「どんぐりの家」(日本漫画家協会賞優秀賞)「赤狩り」

監督 松本勲

(石井隆、松尾昭典、山崎貴、高橋伴明らの助監督を経て、近年では大林宜彦の監督補佐を務める傍ら、中・短編映画を撮り続け、各映画祭等での受賞数多数)

## 名北福祉会障害部地域上映会

日時: 令和元年 8月31日 (土)

① 10:15~ (10:00~利用者ステージ)

② 13:00~ \*「星に語りて」上映時間約2時間

場所: めいほく鳩岡の家3階はとおかホール

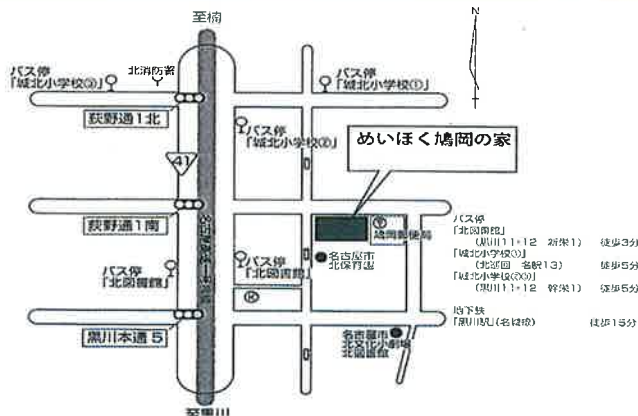
チケット代: 500円 (障害者手帳お持ちの方は当日提示していただければ本人・付添1名無料)

\*チケット代500円で「夜明け前」(15:30~)も鑑賞できます。

☆チケットなどの問い合わせは

映画実行委員会事務局

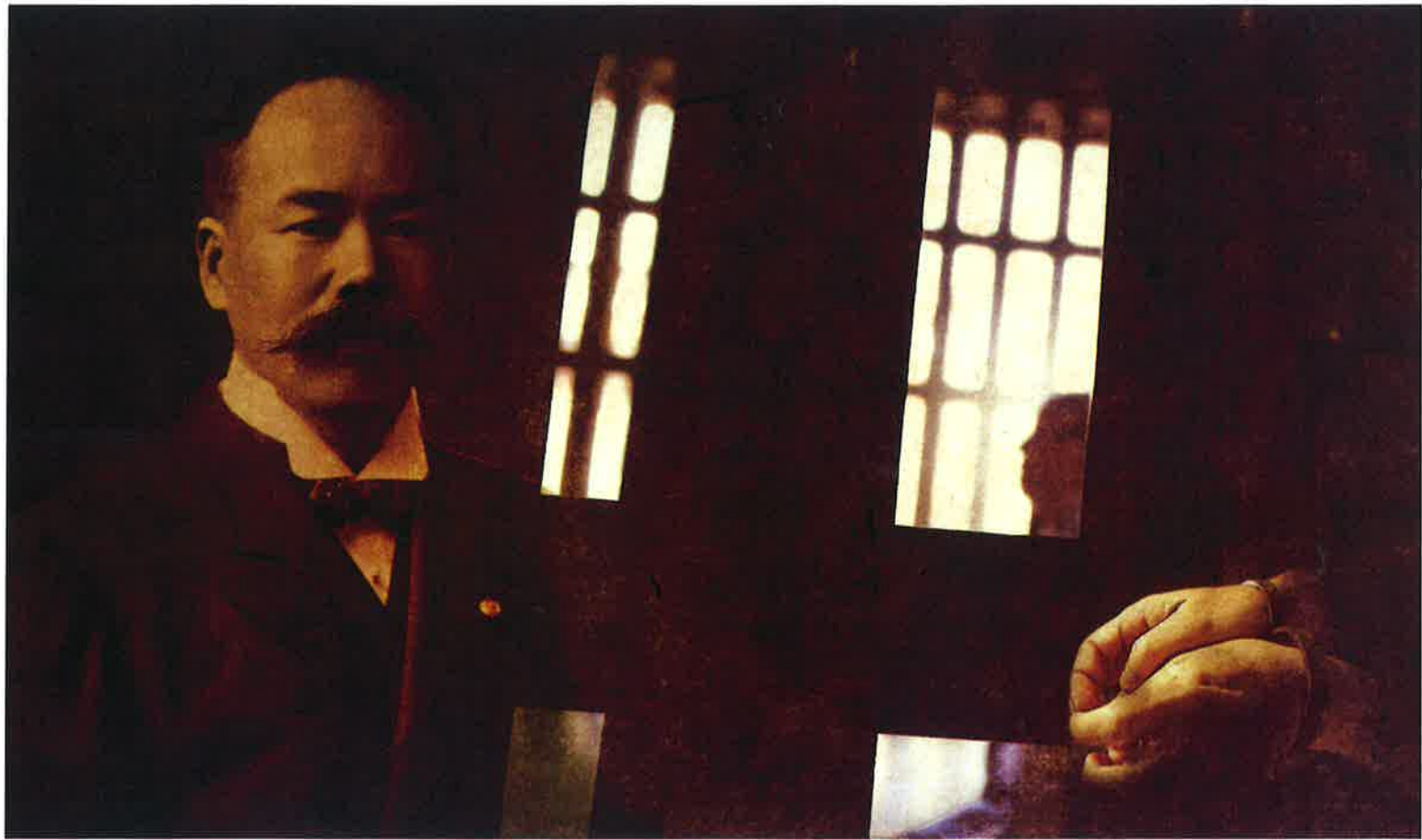
(めいほく共同作業所 TEL052-916-4470) 梶村まで



上映会場: めいほく鳩岡の家  
〒462-0025 名古屋市中区鳩岡町1-1-5  
TEL052-911-0055 FAX052-911-1155

# 夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年



我が国十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし。精神病者の救済・保護は実に人道問題にして、我が国目下の急務と謂はざるべからず。 呉秀三

今井友樹監督作品

ナレーション 竹下景子

企画 藤井克徳 / 監修 広瀬徹也  
プロデューサー 中橋真紀人 / 撮影 小原信之 / 編集 古賀陽一  
協力 一般社団法人 障害者映像文化研究所 / バリアフリー版制作 Palabra株式会社  
製作協力 株式会社 工房ギャレット  
製作 記念映画製作委員会 公益財団法人 日本精神衛生会 / きょうされん / 有限会社 イメージ・サテライト  
ドキュメンタリー / 2018年 / 66分 / BD

# 心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？ 精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！



松沢病院の呉秀三胸像

呉秀三（くれしゅうぞう）は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はどのように変わっているのだろうか？

精神障害者をめぐる問題は一つの国の在り方を左右する重大なものであり、欧米でも改革が進められている。何故なら、

人口の1%プラスアルファが精神疾患を発症するという前提のもと、全ての国民が理解と対処を迫られているからである。

しかし、古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取り組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人 **日本精神衛生会**と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎える **きょうされん**（旧称：共同作業所全国連絡会）が提携して製作したのが本作である。

長編第1作『鳥の道を越えて』で高い評価を得た今井友樹監督（工房ギャレット代表）が、先輩である小原信之カメラマン（民俗文化映像研究所代表）とタッグを組み、2003年の記録映画の最優秀作として注目を集めた夜間中学の



資料館の「拘束具」

記録映画『こんばんは』（毎日映画コンクール記録文化映画賞／文化庁映画大賞）の編集を担った古賀陽一編集マンを迎え、その『こんばんは』、重度重複障害児を育てる家族を描いたアニメ『どんぐりの家』（きょうされん 20周年／山本おさむ原作・脚本）や、精神障害者の社会復帰を描く劇映画『ふるさとをください』（きょうされん 30周年／脚本：ジェームス三木）で指揮をとった中橋真紀人プロデューサー（イメー

ジ・サテライト代表）のもとでパッションとパワーを注いだ。呉秀三研究の第一人者・岡田靖雄先生（精神科医療史研究室代表／元・松沢病院医師）、「座敷牢」問題の調査研究を続ける橋本明先生（愛知県立大学教授）、日本の精神科医療のトップに位置する都立松沢病院の齋藤正彦院長というキー・パーソンへのインタビューを軸に構成された本作品は、これまでの100年を見つめ直し、これからの100年を考える貴重な映像的素材と言えるだろう。

作品の中に登場する資料には、現存する2冊のみの「私宅監置」報告書（1冊は岡田先生の手元に、もう1冊は国会図書館！）、呉秀三の初めての著作の初版本、家族にあて欧州から送った絵葉書（既に所在不明！?）、秘蔵されていた数枚の写真（東大医学図書館に保管）などがある。日本で初公開！呉秀三の欧州留学先での足跡——彼が1900年前後に留学・視察したベルギーとオーストリア（ウィーン大学）に残されている「自筆の署名」を求めて海外ロケを敢行し、彼の下宿アパートもカメラに収めてきた。



東京大学安田講堂



海外ロケ（ウィーン）

## 今井友樹監督作品

### 勇気をもって前へ

立教大学教授 香山リカ  
いつの時代も、社会を前に進めるのは、ひとりの気づきとそれに触発された大勢の仲間たちです。いまも心の病を持つ人たちが正しく理解され、その人権が十分に守られているとはとても言えません。

しかし、彼らが私宅監置などのもつとひどい処遇をあたりまえに受けていた時代に、呉秀三はそのおかしさに気づき、病者に治療と福祉の光をあてようとしたのです。私も本作から多くを学び、勇気づけられました。

## 夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年

[ドキュメンタリー／2018年／66分]



今から100年前  
精神病に有効な  
治療法が無かった時代  
座敷牢に  
幽閉された精神病患者を  
救おうと奔走した  
一人の男がいた

## 夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年

### 夜明けを迎える一助として

きょうされん専務理事 藤井克徳  
「呉秀三を正確に知ってほしい」一本映画企画の最大の動機です。あの「座敷牢調査」から100周年という節目の力を借りて伝えたいのです。呉秀三の言動が現代日本にして何ら色あせることなく、そっくり今に通用しており、「この国に生まれた不幸」は、見方によっては当時よりも真に迫っているのではないのでしょうか。呉秀三の言動が名実ともに古めかしく感じられる社会をどう作っていくか、障害当事者や家族の一人ひとりが本当の夜明けをいかに実感できるか、本映画がその一助になることを願っています。

(日本精神衛生会理事)

## 名北福祉会障害部地域上映会～「夜明け前」上映時間約1時間

日時：令和元年8月31日（土） 15:30～場所：めいほく鳩岡の家3階はとおかホール  
チケット代：500円（障害者手帳お持ちの方は当日提示していただければ本人・付添1名無料）  
チケット代500円で「星に語りて～StarrySky～」(①10:15～②13:00～)も鑑賞できます。

上映会場：めいほく鳩岡の家（表面地図参照）

〒462-0025 名古屋市北区鳩岡町1-1-5 TEL052-911-0055 FAX052-911-1155

\*チケットなどの問い合わせは

映画実行委員会事務局（めいほく共同作業所 TEL052-916-4470）梶村まで